





近隣の道の駅視察について

1. 道の駅視察概要

①視察の目的

幌延町における拠点や道の駅の具体的な在り方を考えるために、できるだけ幌延町の条件と似た道の駅を視察し、施設の状況や運営方法などについて視察する。

②視察先

視察先	概要	視察日時	視察人数	写真
道の駅絵本の里 けんぶち	剣淵のテーマである絵本の、そして、食と農業を形にした道の駅レストラン、農産物直売所その他、パン屋が人気の道の駅。高速道路利用者の休憩地となっており、週末には駐車場で軽トラマルシェなどを行い、利用者増に向けた取り組みも実施している。	2019年2月26日(火) 12:15～13:45	9名	
道の駅もち米の 里・なよろ	名寄市の南の玄関口として豊かな田園風景にたたく道の駅。「もち米」にこだわった特産品の販売や農産物直売所、レストランの他、地域FM「Airてっし」のサテライトスタジオが入っており、名寄市及びその周辺の情報を発信をしている。	2019年2月26日(火) 14:15～15:00	9名	
道の駅東オホーツク はまとんべつ	『人が集まる魅力ある場づくり～「交流」「道の駅」「ターミナル」の複合交流拠点～』をコンセプトに、浜頓別市街地に今年度オープンした新しい道の駅。町民も積極的に利用してもらうため、子どもの遊び場を充実させた他、商工会事務所が入っている。	2020年1月29日(木) 10:45～12:00	13名	
道の駅てしお	宗谷管内へのゲートウェイ的な道の駅のため、幌延で検討している道の駅の条件と類似性が有る。道の駅赤井川の立ち上げ・運営に関わった方が地域おこし協力隊として従事しており、その方からも道の駅の立ち上げや運営に関するノウハウについても学ぶ	2020年1月29日(木) 14:30～16:00	13名	

2. 視察報告

①道の駅絵本の里けんぶち

- 利用者数の把握として、農産物直売所及び正面入り口、トイレの入り口にカウンターが設置されており、来訪者の人数をカウントしている。平成29年度で49万人の方が来館されている。
- 平成29年度で1億5千万程度。道の駅単体では、黒字である。利益率は、一般的な箱菓は原価が安く、利益率が高い。また、パンも人件費はかかるが、原価率を抑え、利益を上げている。
- 正社員として、店長及びベーカリーの責任者が2名、準社員として調理師免許を持っている方が2名、パート11名となっている。
- 道の駅直売所運営協議会に加盟した方しか出店できない。個人も含め41団体が出店。POSシステムで売り上げを管理しており、メールにて11時・14時・17時に生産者へ売り上げ状況を報告している。売り上げに対しての15%の手数料を徴収している。
- 指定管理料については、ある程度町から頂いている。内容としては、裏の公園管理、トイレの管理経費となる。
- キャンピングカーを含め車中泊の車は多い。第二駐車場があり、そこに一か月ほど停車している方がいる。ゴミを散らかす等の問題は少ない。
- 大きな駐車場とコンセプトが重要。道の駅と一緒に既存施設の運営ができれば、経費も削減でき、さらに利用者の分母が増え、売り上げも増える。
- 道の駅の利用者は7割程度が夏場利用。夏場にできるだけ稼いで、冬の収入は見込めないことを前提に考えた方が良い。
- 冷蔵庫や冷凍庫も含めバックヤードは、大きめに確保した方が良い。室内の暑い・寒い、クレームの対象になるため、冷暖房対策は重要。また、パンを焼くオーブンやフライヤーなども電気を使うため、電気容量は多めに考えた方が良い。
- 閑散期の対策などは単一の道の駅では難しいことも多く、近隣の道の駅連携を考えている。



直売の方法について説明頂いた。



道の駅の運営等について説明頂いた。

2. 視察報告

①道の駅もち米の里なよろ

- 成29年度で47万人。入込数はレジ打ち数をカウントしている。実際に訪れている方は、65～70万人くらい。観光バスは減少傾向にあり、多い時は1,000台程度の利用があったが、今は500台くらい。
- 売り上げは昨年で3億2千万程度で、年々減少している。自社で開発したもち米を使った甘酒やおかき、餅入りどらやき等、多数の商品を販売している。また、道北の商品を広くラインナップしている。
- 従業員数は年々減少し、現在は売店6名、レストラン4名、事務・営業で3名の全13名。ハローワークで募集をかけても、応募が無い。
- 農産物直売会が運営する農産物直売所は、右肩上がり売り上げが伸びており、昨年度で、5000万円を超えている。近隣の道の駅では、値段が高いと評価されているが、それにあわせて、品質も向上している。
- キャンピングカーは、増加傾向にあり、夏場の多い時期には、20台程度が停車している。マナーが悪い方も多い。最近では、RVパークとして、電源・水が完備されているキャンピングカー用駐車場を用意している道の駅等もあるようだ。
- 冬期の吹雪時は、1日の売り上げが10万円程度と開店休業状態の日もある。お盆の繁忙期は、一日で300万円を超える日もある。
- 道の駅連携を進めており、情報交換やお互いの特産品販売、イベント連携、スタンプラリーについて検討していく予定。



販売している特産品等を説明頂いた。



道の駅の運営等について説明頂いた。

2. 視察報告

①道の駅東オホーツクはまとんべつ

- 当初は物産館として検討したが、浜頓別にどの程度物産があるのか？という疑問が検討会議で挙げられた。酪農と漁業が中心のため、物産はチーズ程度しかない。また、海産物の加工品も無い。売るものがないのであれば、物産館は不要とのことで、交流を主眼に改めて議論し、設立に至った。
- 最も多い月(5月・7月・8月)で月の入込みが4万人を越えた。1日2,000人以上が来館する日もある。一方、冬期はひと月、1万~1万5千人程度。道北や宗谷へ訪れる旅行者が少ないことが影響している。
- 軽食スペースとして設計し、テナント募集したが、最終的にパン屋さんが入ることになった。本来はラーメンやソバの提供を想定していたが応募した事業者がパン屋さんだった。
- 夏場は車中泊をする利用者は多く、大きなマナー違反は無い。細かいことを言えば、トイレの洗面台を汚したり、ごみ処理も問題がある。
- まちなかに道の駅があることで近隣住民等から苦情は、ほとんどないが夜のアイドリグの音が気になるという話はあった。
- 指定管理者への予算額は、初年度ということもあり、どの程度、経費がかかるか分からないため、まずは3,900万円となった。水道光熱費も含めた費用となっている。
- 道の駅の効果として、観光客は増えた。砂金堀体験やベニヤ原生花園も入込客数も増えた。さらに、湖畔のキャンプ場は人気で、夏は一杯でテントも張れないくらい。利用者は2,000人程度増加した。経済波及効果については、隣のスーパーなどの買い物は増えたという感想がある。町全体の経済効果は算定しきれていない。町の中心部に作ったこともあり、にぎわい創出には効果があったと思う。
- 雇用としては、指定管理者として「館長」「副館長」を公募し、新たに雇用した。カフェ・ショップも違う商売をしていた方が、新たにパン屋をオープンし、商工会に加盟した。施設の清掃は、新しい会社を設立し、業務を行っており、そこでも新規雇用が生まれている。



販売している特産品等を説明頂いた。



道の駅の運営等について説明頂いた。

2. 視察報告

①道の駅てしお

- バスの停車スペースは3台用意している。主に、宗谷バス(貸し切り)の利用が多い。利用は1日・3台程度となっている。大型バスの利用は、トイレタイム程度。冬場はほとんど利用が無い。今は遠別の道の駅が使用できないため、利用頻度が高くなっている。
- 海岸沿いを走る方の最後に道の駅として認識されていると感じているが、仕掛けがないと人は来ない。何かをやらないといけない。
- 留萌管内の道の駅会議では、道の駅が連携したグルメラリーやご当地メニューのスタンプラリーなど周遊の仕組みづくりが必要と声が上がった。今後は、周遊の仕掛けを考えたい。

<勉強会>

- 赤井川も商工会が当初は運営していたが、商工会は会員数によって職員数が決まる。売り上げが1億を超えると商工会の仕事ができない。2年で商工会の運営をやめて、運営会社を設立した。どのような組織で運営するか重要となる。
- 年間の集客と冬期対策として、道の駅は年間通して、何かを実施することが大事。通年では、季節の節目に合わせた飾り付けをして、賑わいを創出する。
- 家賃の設定は入りやすい価格とし、売り上げの15~20%程度でテナント料を抑えれば入居しやすい。町の人が参画しやすい価格設定にすることが大事。
- 道の駅の中だけではなく、外に付帯施設を検討することも必要。直売所やコーヒーショップなどは良い。
- コインランドリーも良い。天塩町にはクリーニング屋が無いため布団が洗えない。大物の洗濯は稚内まで行っている。このサービスは、車で旅行者だけでなく町民サービスも兼ねることができるので良いと思う。
- スタンプラリー帳は年4万冊売れており、その30%はスタンプラリーに参加しているため、道の駅に登録されれば黙っていても人は来る。トイレ綺麗にして管理すれば、若い人もくる。
- 幌延は人口約2,300人。赤井川の人口の倍。やり方によってはできるような気がする。産業がなくても、それに値したような道の駅ができれば人が来ると思う。



役場の道の駅担当者より道の駅の運営について説明頂いた。



地域おこし協力隊の村上氏から道の駅赤井川の設立などの実績についてお話し頂いた。

3. 視察まとめ

視察時のアドバイス	アドバイス頂いた道の駅名
駐車場の台数は、ある程度余裕のあるスペースが必要。無い場合は周辺の駐車場の活用も考える。	剣淵
来館者数は観光旅行者数に左右される。割合としては夏場が70%、冬期が30%程度となる。冬期の利用促進としては、町民利用など促すイベント開催や季節ごとの飾りつけなど賑わい演出を行うなど工夫を行う。	剣淵、天塩、浜頓別
道の駅に登録されることで、スタンプラリー参加者など、ある程度の来訪は見込める。その後、リピーターになるかは、工夫が必要。	天塩
来館者数が多い夏期の対応として、屋外のスペースを活用し、軽食などを提供するカフェの併設など、柔軟に活用できるスペースの設置があると良い。	天塩
町民向けのサービス・機能を設けることで、町民の利用を促すことも考えられる。例えば、コインランドリーなどは、クリーニング店が無い町には有効。	天塩
電気容量やバックヤードのスペースなど、オープン後の機能の拡充などを踏まえ、ある程度余裕をもって計画する方が良い。	剣淵、天塩
売り上げの軸となる利益率の高いビジネスがあると良い。例えば、パン屋は観光旅行者、地元住民ともに利用するためおススメ。その他、地域らしい持ち帰りグルメが良い。	剣淵
道の駅と一緒に既存施設の運営ができれば、経費も削減でき、さらに利用者の分母が増え、売り上げも増える。	剣淵
閑散期は、周辺の道の駅等と連携した広域連携を行うことも利用者獲得に向けては重要。	剣淵、名寄
最近ではキャンピングカー利用者が多く、ゴミやトイレの水回りのマナー問題もある。	名寄、剣淵、浜頓別
道の駅として登録されることで、観光客の増加、まちの賑わい創出には寄与する。	浜頓別
施設管理や清掃など、町に新たな雇用は創出されるが、労働者確保に苦労する場合もある。	浜頓別、剣淵、名寄
カフェやレストランなどテナントを設ける場合は、冬期のことも考え、入居しやすい価格の設定が必要。例えば、テナント料は売り上げの15～20%程度とする。	天塩
地域内の経済循環を考えると、運営については、町の地域振興を目的とした組織が良い。	天塩